

Nagasaki Association for Hibakushas' Medical Care

# NASHIM



ヒバクシャ医療国際協力通信

## Vol.17

2005 AUTUMN



第6回永井隆平和記念・長崎賞授賞式

- Report ..... 第6回 永井隆平和記念・長崎賞
- People ..... 第6回 永井隆平和記念・長崎賞 受賞者紹介
- Report ..... チェルノブイリ・カザフスタン医師受入研修
- People ..... 研修後の感想「長崎で過ごした日々」
- Report ..... ジュネーブでのWHO・長崎大学COE共同セミナーに参加して
- Information ..... 核禁会議がNASHIMへカンパ金を贈呈、図書出版
- Information ..... 長崎・ヒバクシャ医療国際協力会平成17年度役員異動／平成17年度の事業内容

# Report

## 第6回 永井隆平和記念・長崎賞

7月25日、今回で第6回目となる永井隆平和記念・長崎賞を、市丸道人博士（長崎大学名誉教授）と横路謙次郎博士（広島大学名誉教授）のお二人に授与しました。

長崎・ヒバクシャ医療国際協力会（NASHIM）は、原子爆弾による被爆者と放射線被ばく事故等による被災者に対する治療及び調査・研究等の分野において、ヒバクシャ医療の向上・発展、ヒバクシャの福祉の向上を通じ世界平和に貢献し、将来にわたる活躍が期待される国内外の個人または団体に、永井隆平和記念・長崎賞を隔年毎に贈っています。



井石哲哉NASHIM会長からブロンズ像を授与



永井隆博士の孫、永井徳三郎氏から花束贈呈



朝長万左男 長崎大学教授の特別講演

授賞式は長崎市のホテルニュー長崎で行われ、井石哲哉 長崎・ヒバクシャ医療国際協力会会長から受賞された市丸博士と横路博士に賞状、ブロンズ像、副賞が授与されました。続いて、賞選考委員会委員の関根一郎 長崎大学大学院原爆後障害医療研究施設教授に受賞者の功績を詳しく紹介していただいた後、永井隆博士の孫である永井徳三郎 長崎市永井隆記念館館長からお二人に花束が贈呈されました。

授賞式には、金子原二郎長崎県知事や内田進博長崎市助役をはじめ、医師会、病院、研究機関などからたくさんの医療関係者に出席して祝っていただきました。

また、特別講演として朝長万左男 長崎大学大学院原爆後障害医療研究施設長から「半世紀を経てもなお持続する被爆者の健康障害」というテーマでご講演もいただきました。

受賞された市丸道人博士と横路謙次郎博士は、白血病や乳癌など放射線による発癌等の研究を積み重ねられ、被爆者医療の発展に多大な貢献をされたことや、核戦争防止国際医師会議（IPPNW）の草創期からの中心メンバーとして核兵器廃絶運動に永年取り組んでこられ、世界平和に大きく貢献されたことなどが評価されたもので、原子爆弾被爆60年という記念の年に最もふさわしいものとなりました。

授賞式で、市丸博士は長崎医科大学卒業式の日永井隆博士の自宅へご挨拶に行った時、永井博士から医師として出発する心得のようなものをいくつか話していただいた思い出を語られるとともに、横路博士は永井博士の崇高な精神を具現すべく、健康の許す限りIPPNW活動に邁進していきたいと抱負を語られました。



市丸 道人 博士(80歳)

サンレモ リハビリ病院長(佐世保市)・長崎大学名誉教授

- ・大正13年12月26日生まれ(北海道札幌市)
- ・昭和25年3月 長崎医科大学卒業
- ・昭和55年12月 長崎大学医学部附属原爆後障害医療研究施設長(併任)
- ・平成2年3月 長崎大学を定年退官し、同年5月から長崎大学名誉教授
- ・平成3年~7年 佐世保市立総合病院長

### 主な活動歴

- ・昭和25年~ 長崎医科大学卒業後は第二内科において血液内科学と原爆後障害医療の研究を開始し、白血病を研究テーマとして長崎における原爆後障害研究の中心となる。
- ・昭和48年~ 厚生省原爆医療審議会の専門委員として被爆者に対する医療援護の充実に尽くす。
- ・昭和55年~ 核戦争防止国際医師会議(IPPNW)に国際評議員として参画するとともに、長崎支部副支部長、顧問を務める。

### 学術上の貢献

血液学専門の内科医・研究者として、永年にわたって被爆者における放射線誘発性造血器腫瘍・癌の発生率を明らかにする疫学研究やその治療法の研究開発を行ってきた。中でも昭和25年頃から始まった白血病多発の実態を解明したことは卓越した功績と高く評価されている。



横路 謙次郎 博士(78歳)

広島県医師会腫瘍登録室長・広島大学名誉教授

- ・昭和2年4月11日生まれ(岡山県井原市)
- ・昭和27年3月 広島県立医科大学卒業
- ・昭和56年4月 広島大学医学部附属原爆放射能医学研究所長(併任)
- ・平成3年3月 広島大学を定年退官し、同年4月から広島大学名誉教授
- ・平成3年~6年 (財)放射線影響研究所顧問研究員(長崎研究所)

### 主な活動歴

- ・昭和28年 人体病理学及び実験的放射線発癌の研究を開始。
- ・昭和33年~36年 米国において放射線、化学物質及びウイルスによる発癌機序の実験的研究に従事する。
- ・昭和57年~ 核戦争防止国際医師会議(IPPNW)に参画し、日本支部事務総長、日本支部副会長、全地域代表理事を務める。

### 学術上の貢献

実験病理学の専門家として永年にわたって実験発癌の研究に取り組み、特に放射線によって惹起される白血病や放射線誘発乳癌をはじめ種々の臓器癌の発癌研究を行い、我が国での放射線発癌研究の基盤を作った。さらに発癌研究はホルモンやウイルスによる発癌実験や発癌機構の解明に及び、我が国での実験発癌研究の中心的役割を果たした。

## ~過去5回の受賞者~



- 第1回 秋月辰一郎氏 聖フランシスコ病院顧問
- 第2回 サイム・バルムハノフ氏(カザフスタン共和国)  
放射線腫瘍医学研究所長
- 第3回 ヨハネス・ヤコブ・ブローセ氏(オランダ)  
ライデン大学教授 物理学者

- 第4回 エヴゲニイ・デミチュック氏(ベラルーシ共和国)  
放射線内分泌研究所 甲状腺部門部長  
鎌田七男氏(財)広島原爆被爆者援護事業団理事長、  
広島大学名誉教授
- 第5回 日本チェルノブイリ連帯基金(長野県松本市)

# Report

## チェルノブイリ・カザフスタン医師受入研修

平成5年度から毎年実施しているチェルノブイリ・カザフスタン関連医師・専門家研修が、本年度も7月25日から8月24日まで、長崎大学医学部を中心に行われ、ベラルーシ共和国、ロシア連邦からそれぞれ2名、ウクライナ、カザフスタン共和国からそれぞれ1名の計6名が参加しました。

研修はまずヒバクシャ医療の全体像を把握してもらうための「一般カリキュラム」を行った後に、各研修生の専門分野に即した「専門カリキュラム」を行いました。



日本赤十字社長崎原爆病院を視察

一般カリキュラムでは、放射線影響研究所や長崎市原爆被爆者健康管理センター、長崎原爆病院の視察をはじめ、恵の丘長崎原爆ホームの訪問、天草はまゆう療育園の見学を行ったほか、長崎大学の原爆後障害医療研究施設を中心とした各関連教室で放射線医学分野の講義や実習を行いました。特に研修期間中1泊2日で訪れた熊本県天草のはまゆう療育園では、重症心身障害者に対するきめ細かな医療ケアを見学し、大きな感銘を受けたようです。さらに今年は、昨年12月からスイス・ジュネーブの世界保健機関（WHO）に専門官として派遣されている長崎大学の山下俊一教授が一時帰国され、放射線国際保健学の特別講義として2日間の集中講義を行なわれました。

専門カリキュラムでは、それぞれの専門分野にあわせ、疫学や病理学、分子生物学などについて長崎大学大学院医歯薬学総合研究科の各教室で研修を行いました。研

修生の中には、滞在中に長崎大学の研究者と共同研究を行い、その成果を国際的雑誌に発表した方もおり、非常に実りある内容になったようです。また8月9日の長崎原爆記念日には、研修生全員が平和祈念式典に参列して、長崎原爆で被害にあった多くの人々の冥福を祈りました。



長崎市原爆被爆者健康管理センターを視察

研修生はいずれも、今後、ヒバクシャ医療あるいは放射線医療教育といった分野で各国において中心的役割を担っていかれる方々ばかりです。将来の国際医療協力分野における良きカウンターパートになっていただけるものと思っています。NASHIMでは今後とも長崎大学をはじめとした研修機関と協力しながら、本事業を継続し、発展させていきたいと考えています。



齋藤 寛NASHIM副会長（長崎大学学長）から修了証書を授与

チェルノブイリ・カザフスタン関連医師研修者名簿

氏名	性別	国籍	所属・役職・専門分野
Irina Zamulaeva イリナ・ゼムラーエヴァ	女	Russia ロシア	オブニンスク放射線医学研究所 主任 放射線生物学
Svetlana Kozhushnaya スベトラーナ・コジュシュナヤ	女	Russia ロシア	ブリヤンスク州立第二病院 病理医 病理学
Irina Perchuk イリナ・ペルチュク	女	Ukraine ウクライナ	放射線医学研究所 上級研究員 精神・神経病学
Evgenii Voropaev エヴゲニー・ワラバエフ	男	Belarus ベラルーシ	ゴメリ医科大学 上級研究員 放射線医学、腫瘍学
Valentina Drozd ワレンティナ・ドロズト	女	Belarus ベラルーシ	ベラルーシ卒後医師研修大学 教授 内分泌学
Ainur Akilzhanova アイヌル・アキルジャンヴァ	女	Kazakhstan カザフスタン	セミパラチンスク医科大学 助手 血液病学

# PEOPLE

## 研修後の感想

### 長崎で過ごした日々

カザフスタン共和国 国立セミパラチンスク医科大学  
内科学助手 アイヌル・アキルジャンノヴァ



Republic of Kazakhstan

Nagasaki, Japan

今回長崎へ来てすぐに、我々は原爆資料館や国立原爆死没者追悼平和祈念館を訪れ、原爆の甚大なる悪影響を感じました。とくに印象に残ったのは、純真な魂と人類への限りない愛情を持った、永井隆博士の記念館、如己堂です。

長崎大学の多くの先生方の講義は、様々な角度から放射線の影響問題、被爆者に対する検診・援助体制、WHOの役割と課題についてであり、非常にたくさんの情報を得ることができました。

公衆衛生学分野の高村先生からは、遺伝子の解析などをはじめとする分子疫学の手法を教えていただき、その研究結果を英文の論文として国際的な雑誌に投稿することができました。

原研内科の朝長先生、塚崎先生、宮崎先生からは、白血病の治療法や、末梢幹細胞や骨髄の移植などについて、非常に興味深い講義をしていただき、輸血部の長井先生には自己輸血法を紹介していただきました。これらの経験を通じて感じたのは、日本人の医師たちが、彼らの何年分もの経験、成果を私たちに積極的に分け与えようとしてくれたことです。

また8月9日の長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典への参加も、非常に思い出深いものでした。式典で、何千もの長崎市民、外国人の招待客、日本国首相らと共に私たちは祈りました。「長崎が核の恐怖を味わった最後の場所になりますように」と。

長崎は、自然の美しさ、港町のロマンチックな雰囲気、忘れがたい島々の景色、海水浴場、海、セミの鳴き声、ホテルの居心地の良さ、礼儀正しさ、客へのもてなしの心といった点ですばらしい町だと思います。今回参加したNASHIMの研修プログラムは各研修生の要望に応じたプログラムであり、私たちの日本滞在をこのうえもなく楽しく、有益なものとしてくれました。

私個人から、そして国立セミパラチンスク医科大学を代表して、私を研修に招聘してくれ、私の日本での滞在を有益だけでなく快いものとしてくれた、日本の友人たち全てに対して感謝いたします。そして最後に、長崎での研修の機会を提供してくれたNASHIMに対して、心よりお礼を申し上げます。



長崎大学医歯薬学総合研究科で研修



WHO放射線プログラム専門科学官の特別講義を受講

# Report

## ジュネーブでの WHO・長崎大学COE 共同セミナーに参加して

日本赤十字社長崎原爆病院長 進藤 和彦



WHO本部での共同セミナーに参加

2005年9月9日 スイス・ジュネーブのWHO本部で、「原爆放射線の晩発性影響について」をメインテーマとしてWHO・長崎大学COEプログラム共同セミナーが開催された。

セミナーはWHO本部会議場で日米欧の放射線医学・医療専門家約50人が出席して開催された。

日本からは、内閣府原子力安全委員会の久住静代委員、長崎大学齊藤寛学長初め長崎大学医学部関係者、放射線影響研究所関係者、NASHIM関係者総勢20数人が参加した。長崎大学、放影研、NASHIMが会議場前に準備した資料は、他部門のWHO職員が興味深そうに持ち帰っていた。

9月6日朝、台風に追われるように中部国際空港から出発し、フランクフルト経由で約13時間掛かってジュネーブ(時差7時間)に6日夕方到着した。

4日間の滞在中には、日本政府代表部の美根慶樹・軍縮会議日本政府代表部 特命全権大使、藤崎一郎・日本政府代表部 特命全権大使、遠藤 茂・日本政府代表部大使 兼 在ジュネーブ総領事への表敬訪問と軍縮大使公邸で行われた2005世界軍縮

会議フェロー・レセプションにも出席させて頂いた。また、ジュネーブ市地下に建設されている直径9km、円周27kmにおよぶCERN欧州原子力研究機関の地下実験施設の見学では長い時間と莫大な費用を掛けた壮大な実験計画に驚き、そして、国際赤十字委員会(ICRC)の訪問は赤十字病院に勤務する者として感慨深いものがあった。



シャモニからロープウェイで15分の  
エギュー・デュ・ミディ展望台(3800m)よりモンブランを望む

セミナー終了後の10日には、素晴らしい天候に恵まれたアルプス・モンブランの雄大な絶景や氷河見物を堪能させてもらった。

今回のジュネーブでのセミナー出席並びに各部門・施設の訪問、見学には現在WHO放射線プログラム専門科学官としてジュネーブに滞在している山下俊一先生のご尽力によるところが非常に大きく感謝している。

最後になりましたが、NASHIMの一員としてジュネーブでのセミナーに参加させて頂き有り難うございました。



国際赤十字本部(CICR)前:山下俊一教授と共に

## 核禁会議がNASHIMへカンパ金を贈呈

核兵器禁止平和建設国民会議（核禁会議）が行う原爆被爆者救護事業の一環として、今年8月7日、長崎県立総合体育館で原爆被爆者救護団体へのカンパ金贈呈式があり、長崎・ヒバクシャ医療国際協力会（NASHIM）は他の6団体とともに核禁会議からカンパ金をいただきました。NASHIMがいただいた活動助成金30万円は海外の放射線被曝者の支援のために有効に活用したいと考えています。核禁会議には厚くお礼申し上げますとともに、核兵器廃絶と世界平和実現に向けて活動されている核禁会議に心から声援を送りたいと思います。



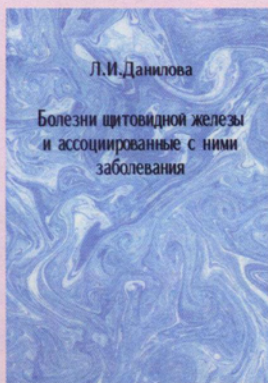
川村 力 長崎核禁会議議長の挨拶

## 図書出版

NASHIMは諸外国での放射線関係事故に関する図書の邦訳出版や長崎原爆関係図書の英訳出版、ロシア語の医学教科書出版などを行っています。今年は、次の図書を出版してベラルーシ共和国の医師や医学生、WHO、IAEA、国連本部等へ寄贈しました。

### 『甲状腺疾患』

著 者： ラリッサ・ダニロワ  
ベラルーシ卒後医師研修大学教授  
監 修： 山下俊一 長崎大学教授  
出版部数： 1,500部（平成17年3月末出版）



本書は、一般臨床医が甲状腺学の基礎から臨床を幅広く学び、チェルノブイリ原発事故のヒバクシャを診療する際に役立つことを目的として、著者が長崎大学の協力により執筆したロシア語の医学教科書です。ベラルーシ共和国の卒後医師研修大学へ1300部無償配布され、今後現地で活用されることにより、チェルノブイリ周辺における甲状腺がんをはじめとする甲状腺疾患の早期診断・早期治療に役立つものと期待されます。

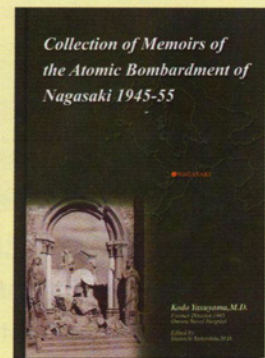
### 『Collection of Memoirs of the Atomic Bombardment of Nagasaki 1945-55』

著 者： 泰山弘道 元大村海軍病院長  
監 修： 山下俊一 長崎大学教授  
出版部数： 1,000部（平成17年8月出版）

本書は、原爆投下直後から大村海軍病院（現在の国立病院機構 長崎医療センター）に収容された被爆者の惨状や臨床経過などの調査報告をはじめ、原爆に関する見聞、アメリカ進駐軍原子症研究班の進駐、また、壊滅的被害を受けた長崎医科大学

の復興問題等について当時の院長であった著者が英文で記述したものを編集・出版したものです。

NASHIMでは長崎原爆の実相を広く世界に伝え、被ばく医療に関する情報を発信するため、国連本部をはじめ世界保健機関（WHO）、国際原子力機関（IAEA）、核関連国の駐日大使館、日本国内の各大学医学部図書館等へ本書を寄贈しました。



## 長崎・ヒバクシャ医療国際協力会 平成17年度役員異動

今年度は次の方々に新たにご就任いただきました。

### NASHIM新理事・委員

#### 理事

長崎大学医学部・歯学部附属病院長 江口 勝美  
財団法人放射線影響研究所 理事長 大久保 利晃  
財団法人長崎原子爆弾被爆者対策協議会 会長 野口 源次郎



#### 運営部会委員

長崎大学医学部・歯学部附属病院 第三内科 教授 矢野 捷介  
長崎大学医学部・歯学部附属病院 精神神経科 教授 小澤 寛樹  
長崎大学医学部・歯学部附属病院 放射線科 教授 上谷 雅孝

#### 運営部会新役員

部会長 長崎大学原爆後障害医療研究施設 放射線応答解析研究分野 教授 奥村 寛  
副部会長 長崎大学原爆後障害医療研究施設 放射線疫学研究分野 教授 柴田 義貞

## 平成17年度の事業内容

- |       |   |        |   |
|-------|---|--------|---|
| 4月25日 | 第1回運営部会開催   | 9月21日  | 第2回NASHIM事業検討会開催  |
| 〃     | 第6回永井隆平和記念・長崎賞第2回選考委員会開催  | 9月23日  | アニメ映画「NAGASAKI 1945 アンゼラスの鐘」上映会開催                                       |
| 6月 7日 | 第1回NASHIM事業検討会開催  | 〃      | インターネット会議システムを利用したベラルーシ共和国ゴメリ医科大学学生と市民との交流会開催                           |
| 6月13日 | 第6回永井隆平和記念・長崎賞委員会開催   | 10月16日 | 韓国から医師等4名を被ばく者医療研修に招聘（～10月22日）  |
| 7月22日 | チェルノブイリ・カザフスタン関連諸国から医師等6名を被ばく者医療研修に招聘（～8月25日）   | 10月30日 | ながさき国際協力・交流フェスティバルでNASHIM事業紹介パネルを展示                                     |
| 7月25日 | 第6回永井隆平和記念・長崎賞授賞式開催   | 11月21日 | 放射線影響研究所と放射線被爆者医療国際協力推進協議会からの依頼により、3名のロシア人医師等を研修のため長崎大学原爆後障害医療研究施設へ連絡調整 |
| 8月 4日 | 『長崎原爆の記録』英語版である「Collection of Memoirs of the Atomic Bombardment of Nagasaki 1945-55」（故泰山弘道 元大村海軍病院長著）を出版（1000部印刷） | 11月22日 | 第2回運営部会開催   |
| 9月 5日 | スイス・ジュネーブのWHOへ専門家2名を派遣（～9月12日）  |        |   |